



平成 27 年 3 月 17 日

独立行政法人国立科学博物館

### 「リュウゼツランの仲間：アガベ・ビルモリニアナ」が開花！！

国立科学博物館筑波実験植物園(園長 岩科 司)において、アガベ・ビルモリニアナ(リュウゼツラン科)が開花しました。

今回、開花したアガベ・ビルモリニアナは当園で 2011 年から栽培されてきたもので、この種の開花は日本では珍しく、当園では初めてで、4 月上旬頃までご覧になれます。

アガベ・ビルモリニアナはメキシコの断崖で生育する植物で、葉がタコの足のよう  
に曲がりくねることから、Octopus Agave (タコのアガベ) とも呼ばれます。花茎は  
まっすぐに伸び 3～5 メートルにもなり、上部にクリーム色から黄色の小さな花を多  
数付け、その姿はまるで巨大な綿棒のようです。

当園のサバンナ温室の岩場で本場さながらの雰囲気です。咲く巨大な花茎を、この機会  
にぜひご覧ください。

つきましては、本件について、取材・記事の掲載など広報に関して特段のご支援・  
ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

※リュウゼツランについては、別紙をご参照ください。

#### 本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部研究推進・管理課研究活動広報担当：西田 幸男

担当研究員：堤 千絵 (植物研究部 多様性解析・保全グループ)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL: 029-851-5159 FAX: 029-853-8998

E-mail: [tbjimu@kahaku.go.jp](mailto:tbjimu@kahaku.go.jp)

国立科学博物館HP

<http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP

<http://www.tbk.kahaku.go.jp/>

## リュウゼツランの仲間：アガベ・ビルモリニアナの開花について

### 1. アガベ・ビルモリニアナについて

学名：*Agave vilmoriniana*（アガベ・ビルモリニアナ）

科名：リュウゼツラン科

分布：メキシコの断崖地域

特徴：葉がタコの足のように曲がりくねることから、Octopus Agave（タコのアガベ）とも呼ばれる。花茎はまっすぐに伸び3～5メートルにもなり、上部にクリーム色から黄色の小さな花を多数付け、その姿はまるで巨大な綿棒のようである。

### 2. 今回の開花について

開花日：平成27年3月12日（木）

大きさ：約4.4メートル（平成27年3月13日現在）

花の見ごろ：4月上旬頃まで

植栽場所：当園サバンナ温室内

当園での開花：2011年栽培を開始してから初めて



植物の全景



花の写真

## 「リュウゼツラン」とは？

リュウゼツラン (*Agave*) はリュウゼツラン科に属する植物群で、アメリカ大陸に分布しています。約 100 種、研究者によっては 300 種あるとされていますが、そのうち約 20 種が筑波実験植物園に植栽されています。この仲間は開花するまでに長いものでは 100 年かかると言われ、「センチュリープランツ (1 世紀の植物)」という英語名がつけられています。この仲間の花茎は自生地では 8 m、時には 16 m にも達しますが、こんなに大きくても一度開花するとタケのように枯れてしまいます。リュウゼツランの名前は葉の形を龍の舌に例えたもので、属名の *Agave* にはギリシア神話にちなみ「壮麗な」「高貴な」という意味があります。

アガベ・ビルモリニアナはメキシコの断崖に生える植物で、葉がタコの足のようになり、曲がりくねることから、Octopus Agave (タコのアガベ) とも呼ばれます。成長は速く、7 ~ 10 年で咲くと言われています。花茎はまっすぐに伸び 3 ~ 5 m にもなり、上部にクリーム色から黄色の小さな花を多数付け、その姿はまるで巨大な綿棒のようです。一度、花が咲くと株は枯れてしまいますが、花序に子株が多数できるので、その子株で増やすことができます。

現在、植物園では、約 4.4 m ほどの花茎を立ち上げ、花序の下からクリーム色から黄色の花が咲き始めたところです。